

# 媒介としての本，媒介者の技

2017年8月30日 京都大学学術出版会 鈴木哲也

## 1 研究評価／学術コミュニケーションの問題点の中から改めて書籍の役割を考える

### 1) 「論文数で測る」評価の問題点と実態

- ・ 実は読まれない学術論文 (Hamilton 1991)
- ・ 狭隘化する，論文中心の学術コミュニケーション (Evans 2008)
- ・ 極めて単線的・短絡的な研究評価の導入 (日本経済新聞 2017年4月26日)

図1 「一度も読まれない論文」(鈴木・高瀬 2015; Hamilton 1991)

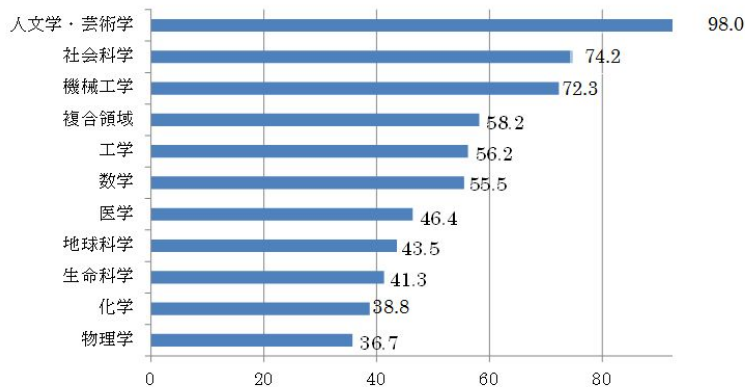
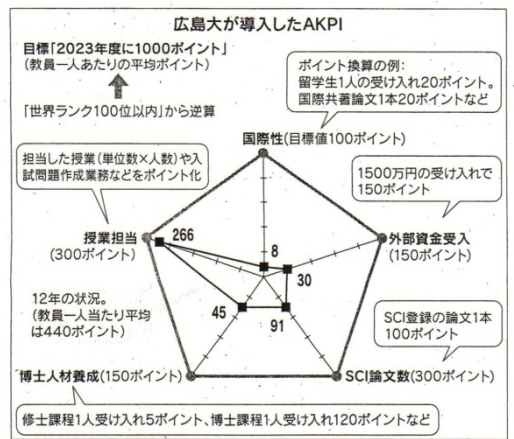


図2 「1ドルも1円も1ウォンも，全部1は1??」(日経 2017年4月26日)



### 2) 学術コミュニケーションの中での本の役割を再評価するチャンス

- ・ 「二回り，三回り外」との学術コミュニケーションのメディア
- ・ 布野先生の『東南アジアの住居』の目次と文献リストから  
内容と，想定されている読者の拡がり

図3 人類進化, 生態史, 社会史, 思想史から都市空間論, 住居論, 建築論へ

## 序章 ヴァナキュラー建築の世界

- 1 住居の起源
- 2 住居の原型
  - 2-1 洞窟— 子宮・部屋・墓
  - 2-2 天幕— ノマドの世界
  - 2-3 高床— 海の世界
  - 2-4 井籠— 森の世界
  - 2-5 組石— ヴォールト・アーチ・ペンデ  
ンティブ
- 3 住居の形態: 地域の生態系に基づく居住シ  
テム
  - 3-1 自然環境
  - 3-2 家族と社会— 住居・集落・都市
  - 3-3 宇宙と身体— 住居とディテール
- 4 住居の変貌

## 第 I 章 東南アジアの伝統的住居

- I-1 ユーラシアの生態環境と住居
  - 1-1 北方林の世界
  - 1-2 草原の世界
  - 1-3 砂漠の世界
  - 1-4 野の世界
  - 1-5 熱帯林の世界
  - 1-6 海の世界
- I-2 オーストロネシア世界と伝統的住居
  - 2-1 東南アジアの生態環境
  - 2-2 プロト・オーストロネシア語
  - 2-3 住居の原型— ドンソン銅鼓と家屋文鏡
  - 2-4 原始入母屋造・構造発達論
  - 2-5 高床と倉

- I-3 家社会— 複数家族と集住形式
  - 3-1 ロングハウス
  - 3-2 ミナンカバウ族の住居
  - 3-3 バタック諸族の住居
  - 3-4 サダン・トラジャ族の住居
- I-4 コスモスとしての住居集落
  - 4-1 三界観念
  - 4-2 オリエンテーション
  - 4-3 身体としての住居
  - 4-4 水牛・船・ナーガ

## 第 II 章 タイ系諸族の住居

- II-1 タイ系諸族の世界
  - 1-1 タイ系諸族の起源
  - 1-2 タイ系諸族の歴史
  - 1-3 タイ系諸族の社会
- II-2 タイ系諸族の集落と住居
  - 2-1 カムティ族
  - 2-2 シャン族
  - 2-3 タイ・ルー族
  - 2-4 タイ・ダム族
  - 2-5 ユアン族
  - 2-6 シアム族
  - 2-7 南タイ
- II-3 タイ・ラオ族の集落と住居
  - 3-1 メコン中流域の集落と住居
  - 3-2 バーン・ナーオウ
  - 3-3 バーン・パクシー

## 2 しかし、実際の研究・教育状況は？ そして「学術書」は？

### 1) 極端に専門化・狭隘化した教育・研究状況

- ・ STAP 細胞問題の教訓

### 2) 最近の若手研究者の単著の実際

- ・ 同じ建築・住空間論の受賞作から、目次と文献リストを比較してみると……

### 3) 正直、社会の「歴史観」を作っていない歴史研究 (D'Arms, JH 1997)

- 書籍の「見え方」の違いの一因がここにある

## 3 書籍の〈技法〉と研究評価の〈技法〉

### 1) 『学術書を書く』を何故書いたか

- ・ 「二回り、三回り外に向けて書く」発想で、主張の仕方、インパクトは大きく違う
- ・ 少しの工夫で、見違えるほど、リーダビリティは上がる

図 4 見出しを少し変えるだけで…… (鈴木・高瀬 2015)

第 1 章 飛鳥時代の庭園	第 1 章 マツ・サクラ・カエデの登場— 奈良時代の庭園
第 2 章 奈良時代の庭園	第 2 章 キク・タケからサクラの愛好へ— 平安前期の庭園
第 3 章 平安前期の庭園	第 3 章 浄土式庭園の登場 — 平安中期の庭園
第 4 章 平安中期の庭園	第 4 章 大規模庭園のサクラ — 平安後期の庭園
第 5 章 平安後期の庭園	第 5 章 新しい美意識の登場 — 鎌倉時代の庭園 1
第 6 章 鎌倉時代の庭園	第 6 章 京都の影響と植栽の多様化— 鎌倉時代の庭園 2
第 7 章 室町前期の庭園	第 7 章 針葉樹の使用 — 室町前期の庭園
第 8 章 室町後期の庭園	第 8 章 枯山水の発展 — 室町後期の庭園
第 9 章 戦国時代の庭園	第 9 章 美を必要とした戦国武将たち— 戦国時代の庭園
第 10 章 江戸前期の庭園	第 10 章 大規模回遊式庭園の登場— 江戸前期の庭園
第 11 章 江戸中期の庭園	第 11 章 「社会政策」としての庭園 (吉宗の時代)
第 12 章 江戸後期の庭園	— 江戸中期の庭園
第 13 章 明治・大正時代の庭園	第 12 章 個人経営庭園の増加— 江戸後期の庭園
第 14 章 昭和前期の庭園	第 13 章 「文人風」から「自然風」へ
	— 明治・大正時代の庭園

### 2) 専門外へ、論理をもって伝えるための「技法」は学術書だけの課題ではない

- ・ いわゆる「ポンチ絵」ではないプレゼンテーション

#### 4 今必要なのは<媒介者>

##### 1) 本当の意味の国際感覚, 現実感覚と, 研究領域ごとに異なる文化を知る

- ・「1ドルも1円も1ウォンも全部同じ1」とはならないために
- ・「大学ランキング」の実態と問題点 (石川編 2016; 鈴木 2016)

##### 2) 異なる領域を結びつける<技法>を知る

##### 3) 媒介者は, 様々な場所に必要

- ・出版, 広報, 図書館 だけでない, 実はほぼ全部門に必要  
高エネルギー実験物理学の研究現場から

Measurement of the CP Violation Parameter  $\sin 2\phi_1$  in  $B^0_d$  Meson Decays  
(Physical Review Letters 86: 12)

##### 4) 系統的な育成が必要

- ・媒介者人事の在り方
- ・主業務としての「繋がる学び」

#### 5 現状の打開と創造を RA と学術諸セクターの共同で

#### 参考文献

D'Arms, JH (1997) Funding trends in the academic humanities, 1970–1995: Reflections on the stability of the system, In: Alvin Kernan (ed.), What's happened to the humanities?, Princeton University Press: Chapter 2.

Evans, JA (2008) Electronic publication and the narrowing of science and scholarship, Science 321: 395–399.

Hamilton, D (1991) Research papers: Who's uncited now?, Science 251: 25.

石川真由美 編 (2016) 『世界大学ランキングと知の序列化: 大学評価と国際競争を問う』京都大学学術出版会。

日本経済新聞 (2017年4月26日) 「」

鈴木哲也 (2016) 「知のコミュニケーションの再構築へ——学術出版からランキングと大学評価を考える」石川真由美編『世界大学ランキングと知の序列化: 大学評価と国際競争を問う』第5章, 京都大学学術出版会。

鈴木哲也・高瀬桃子 (2015) 『学術書を書く』京都大学学術出版会。

